

1998年1月13日

社団法人 経済同友会

98年1月(第43回)景気定点観測アンケート調査結果

調査期間：1997年12月26日～1998年1月8日

調査対象：経済同友会幹事・経済政策委員 計412名

集計回答数：195名(回答率=47.3%)〔製造業70名、非製造業125名〕

*本調査は年4回(1月、4月、7月、10月)実施

【調査結果の概要】

“金融不安による消費マインド萎縮で景況感はさらに悪化”

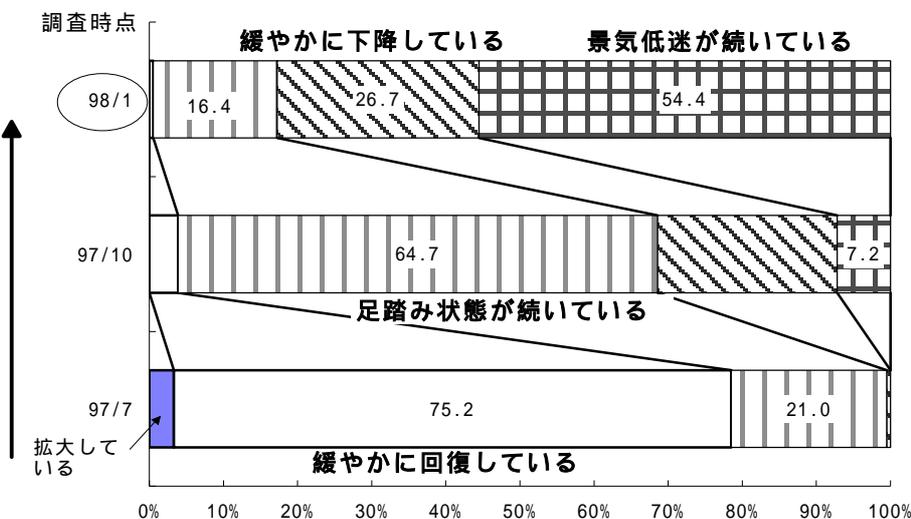
- 昨年夏以降、調査を重ねる毎に景況感が悪化している。すなわち、景気の現状についての多数意見は「緩やかに回復」(97年4月) 「足踏み状態が続いている」(97年10月) 「景気低迷が続いている」(98年1月)へと変化している(下図)。これは、金融システムの不安により、消費者マインドが冷え込んでいることが主因である。
- 98年度の景気展望についても、「後半まで低迷状態が続く」(61.3%)と、先行きを懸念する声が強い。ただ政策次第では「後半に景気が好転する」(28.9%)との意見もある。

〔トピックス<経済対策の評価と98年度景気展望>〕

景気浮揚のためにはさらなる経済対策を

- 経済対策の効果については、「更なる景気の落ち込みに歯止めをかける(58.5%)」程度にすぎず、9割以上が「さらなる経済対策が必要」と考えている。その内容としては、規制緩和と合わせた法人・所得税減税や、金融不安への対応である公的資金積み増しなど。
- 98年度の実質経済成長率見通しについては、政府見通し(1.9%)より低い1%前後が大多数。日経平均株価(99年3月末予測)は、16000円台～18000円台に分かれるが、98年3月末の「15000円台」(38.3%)よりは株高が見込まれている。

<景気の現状についての判断>



・日本経済

1. 景気の現状について

(1) 現在の我が国の景気動向をどのように判断されますか。

景況感はさらに悪化

図表 1

(回答者数195、回答比%)

調査時点	97/1	97/4	97/7	97/10	98/1
拡大している	0.0	1.5	3.3	0.0	0.0
緩やかに回復している	36.8	69.5	75.2	3.9	0.5
回復力が次第に低下*	26.3	-	-	-	-
足踏み状態が続いている	34.7	28.5	21.0	64.7	16.4
緩やかに下降している	2.1	0.5	0.5	24.2	26.7
景気低迷が続いている	0.0	0.0	0.0	7.2	54.4
その他**	-	-	-	-	2.1

(注1)97/4調査以降、選択肢から削除

(注2)98/1から設定

(2) そのように判断する根拠をお選び下さい(2つまで)。

消費マインドの冷え込みが景気低迷の主因

図表 2

(回答者数：195)

調査時点		97/1	97/4	97/7	97/10	98/1現状	98/1展望
設備投資	回復	30.5	44.2	37.6	2.9	0.5	2.6
	低迷	26.8	12.2	6.7	10.6	15.4	19.5
企業収益	回復	13.7	32.5	55.7	2.9	0.0	6.7
	低迷	22.6	9.6	2.4	21.7	32.3	28.2
個人消費	回復	15.3	6.6	7.1	0.5	0.5	19.5
	低迷	40.5	22.8	19.5	88.9	90.8	64.1
公共投資	効果	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	1.5
	薄い	22.6	9.1	5.2	13.5	9.2	9.7
住宅投資	回復	4.2	1.5	0.0	0.0	0.0	3.1
	低迷	2.1	3.0	6.7	41.5	27.7	6.7
輸出	回復	15.3	54.8	52.4	5.8	1.5	7.2
	不振	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
輸入	増大	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
その他		4.7	4.6	3.8	5.3	14.4	16.9

(複数回答、回答比%)

注：その他意見として、「政策次第」、「金融システム不安」、等が挙げられている。

2. 今後の景気展望について

(1) 98年度の景気パターンをどのように展望されますか。

98年度の景気見通しも悲観的

図表3

(回答者数：194)

調査時点	97/4	97/7	97/10	98/1
年度を通じて緩やかな回復基調が続く	19.0	39.0	2.9	0.5
前半は低迷、後半は次第に回復力が強まり好転	51.8	42.9	11.7	28.9
前半の低迷状態が後半まで続く	25.1	13.8	64.6	61.3
前半は低迷し、後半に入り後退する	1.0	0.5	16.5	4.6
腰折れする	0.5	1.0	2.9	1.5
その他	2.6	2.9	1.5	3.1

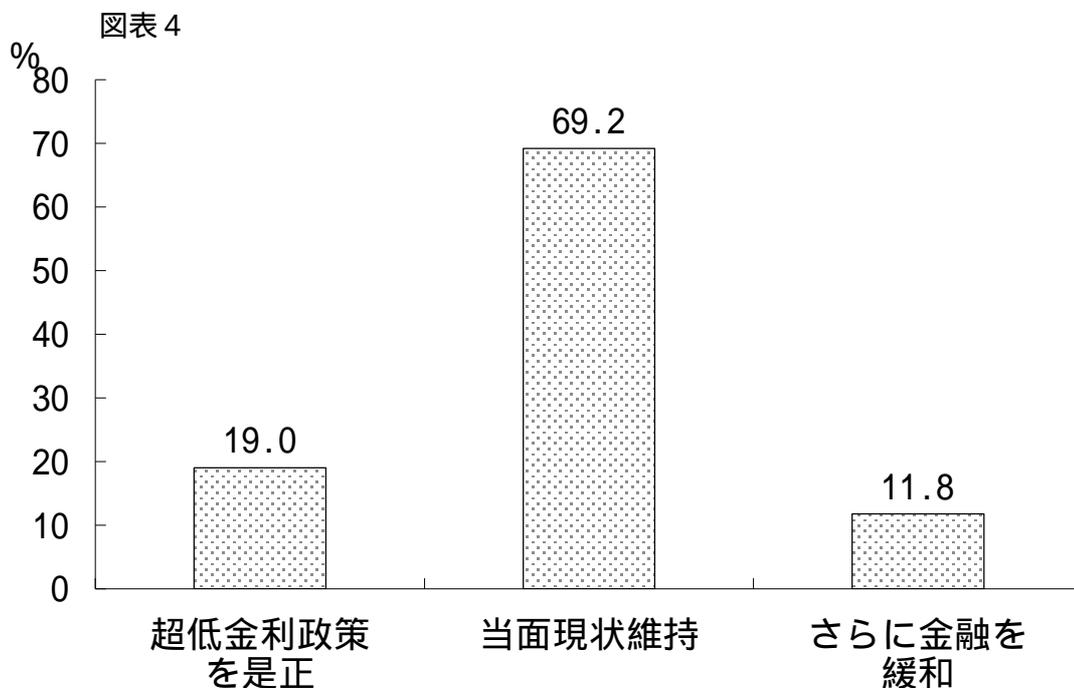
注：97/10までは97年度の景気パターン

(回答比%)

(2) そのように判断する根拠をお選び下さい(2つまで)。[前掲図表2]

(3) 金融政策について、お考えに近い番号をお選び下さい。

金融政策は約7割が「現状維持」



・経営判断

1. 貴社の業績についておうかがいします。下表から該当する番号をお選び下さい。

図表5(1) 業績(10-12月期見込みと1-3月期予想)

全産業		経常利益		
		増益 (+)	横ばい ()	減益 ()
売	増収	24.9	8.5	6.2
	(+)	22.7	11.9	3.4
上	横ばい	3.4	23.7	10.2
	()	1.1	27.3	11.4
高	減収	1.7	5.1	16.4
	()	2.3	2.8	17.0

売上高、利益ともに横ばい
または増加
製造業と非製造業の格差は
縮小

(注)上段：10-12月期見込み、下段：1-3月期予想。
いずれも前期比。(回答者数 176、回答比%)

表5(2) 業績 - - 製造業

製造業		経常利益		
		増益 (+)	横ばい ()	減益 ()
売	増収	28.6	8.6	10.0
	(+)	26.1	11.6	4.3
上	横ばい	5.7	17.1	7.1
	()	1.4	29.0	7.2
高	減収	2.9	1.4	18.6
	()	2.9	0.0	17.4

(注)(1)と同じ。(回答者数:69、回答比%)

表5(3) 業績 - - 非製造業

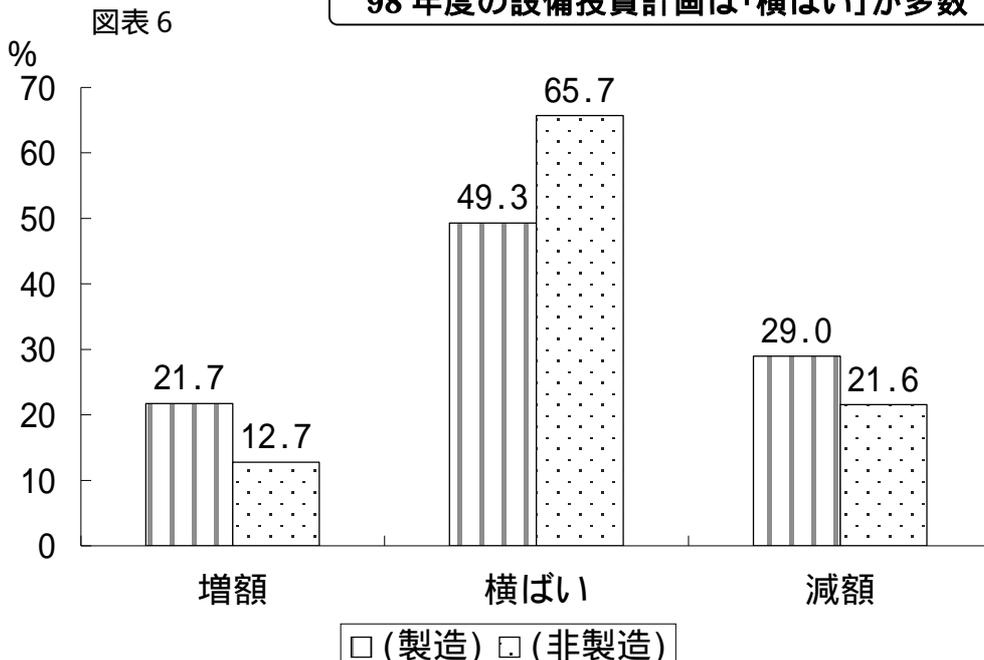
非製造業		経常利益		
		増益 (+)	横ばい ()	減益 ()
売	増収	22.4	8.4	3.7
	(+)	20.6	12.1	2.8
上	横ばい	1.9	28.0	12.1
	()	0.9	26.2	14.0
高	減収	0.9	7.5	15.0
	()	1.9	4.7	16.8

(注)(1)と同じ。(回答者数:107、回答比%)

2. 貴社の設備投資計画(1998年度)についてお伺いします。

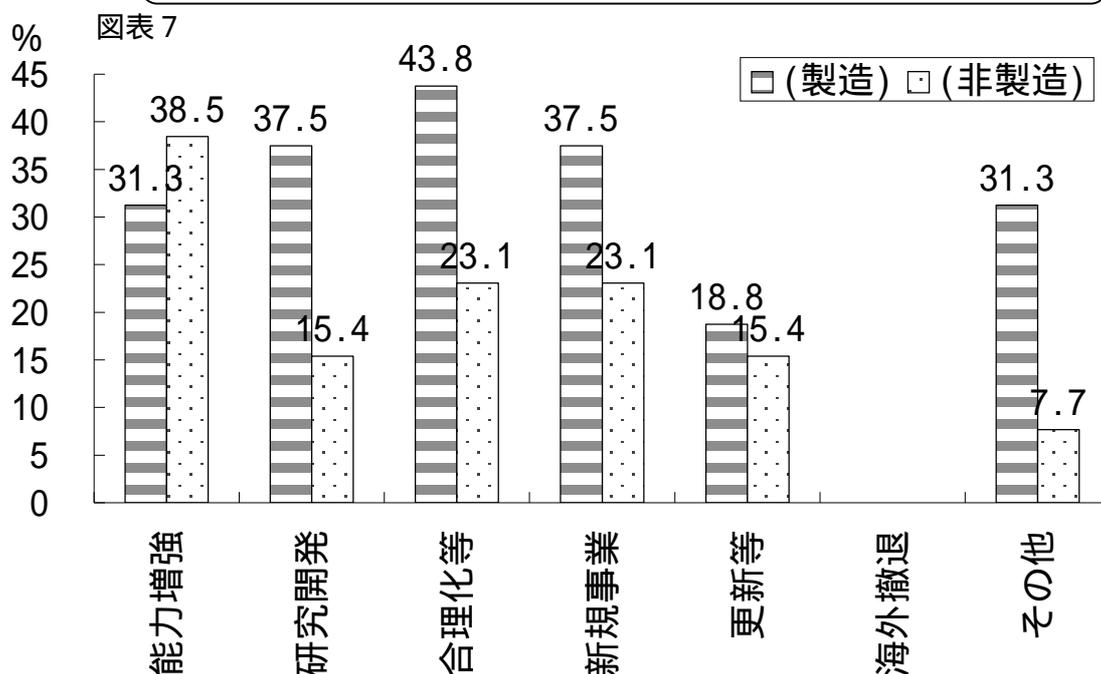
(1)設備投資計画額(98年度)は97年度比でどのようにする予定でしょうか。

98年度の設備投資計画は「横ばい」が多数



(2) 「(1)」で をお選び頂いた方に伺います。増額の主な目的をお選び下さい。(複数可)

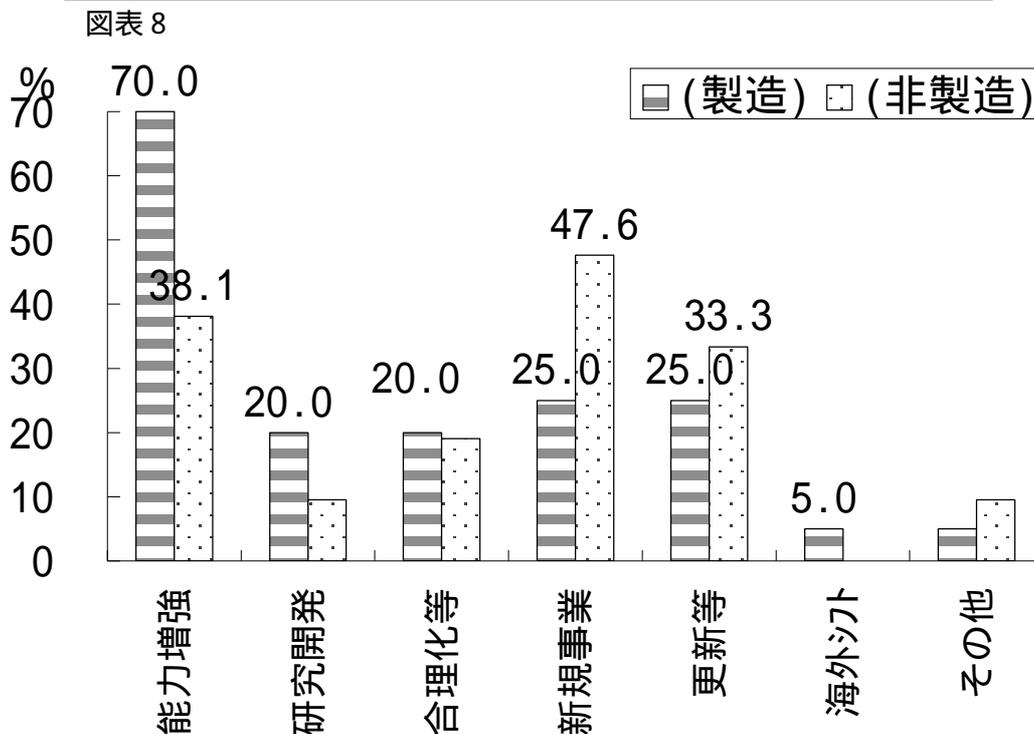
製造業の設投増額目的は「合理化」「研究開発」「新規事業」等、非製造業は「能力増強」が主目的。



注：その他として、情報化投資等。

(3) 「(1)」で をお選び頂いた方に伺います。減額の主な項目をお選び下さい。(複数可)

製造業「能力増強」投資、非製造業「新規事業」投資が減額対象



(4) 海外投資計画額(98年度)は97年度比でどのようにする予定でしょうか。

98年度の海外投資計画は「減額」が「増額」を上回る

図表 9

(回答者数：161*)

調査時点	97/4	97/7	97/10	98/1		
					(製造)	(非製造)
増額	25.9	30.7	23.6	14.9	16.9	13.3
横ばい	58.0	55.2	57.1	57.4	52.3	61.4
減額	16.1	14.1	19.3	27.7	30.8	25.3

注：97/10までは1997年度計画

(回答比%)

*製造業77、非製造業84

3. 貴社の雇用の状況についてお伺いします。現状の雇用人員をどのようにお考えでしょうか。

特に製造業で雇用過剰感高まる

図表 10

(回答者数：196*)

調査時点	97/4	97/7	97/10	98/1		
					(製造)	(非製造)
過剰である	37.0	29.0	31.6	34.1	42.0	29.2
どちらでもない	50.5	57.0	59.2	57.7	50.7	61.9
不足している	12.5	14.0	9.2	8.2	7.2	8.8

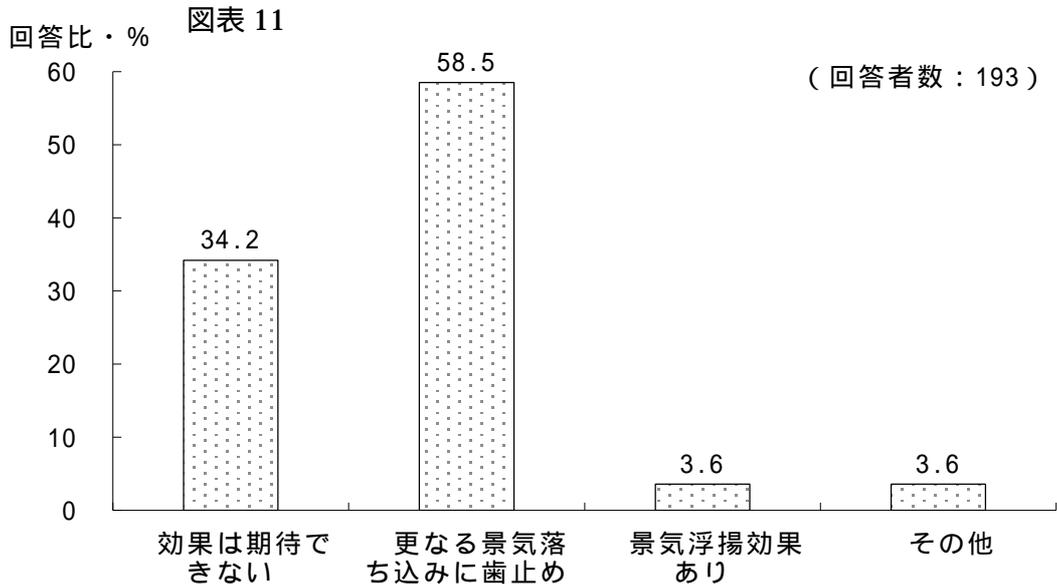
*製造業80、非製造業116

(回答比%)

トピックス < 経済対策の評価と 98 年度景気展望 >

1. (1) 経済対策により、どの程度の効果が見込めますか。

経済対策の効果は限定的



(2) 本格的な景気回復のために、さらなる経済対策が必要とお考えですか。

図表 12 (回答者数：194)

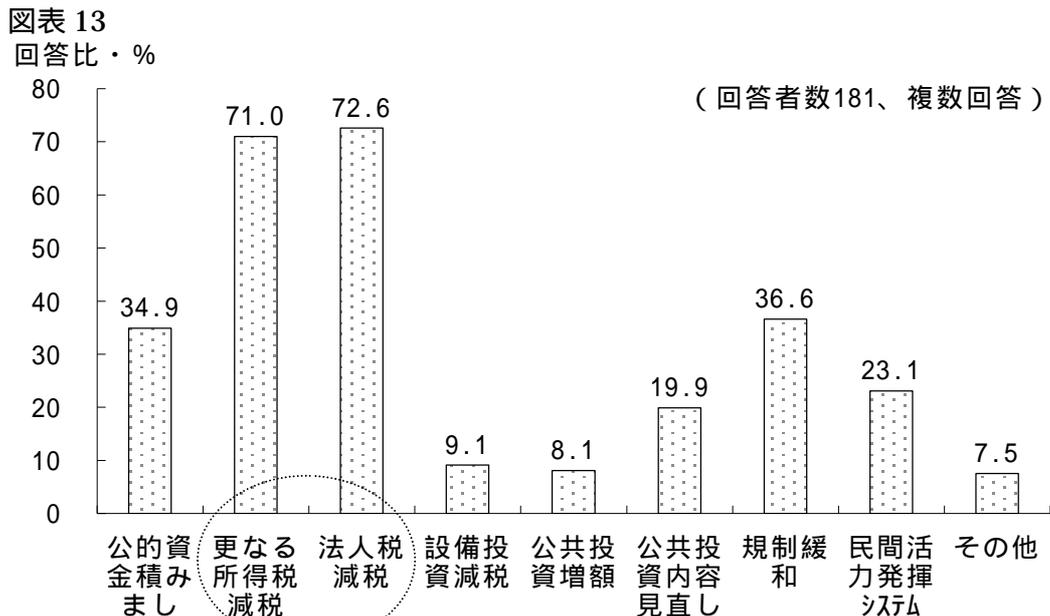
必要である	93.3
どちらともいえない	4.6
必要ない	1.5
その他	0.5

9 割以上が更なる経済対策の必要性を指摘

(回答比%)

(3) 前問(2)で とお答えの方にお尋ねします。必要な追加経済対策は何ですか。(3つまで)

追加経済対策の第一が所得税・法人税減税。規制緩和、公的資金積みまし。

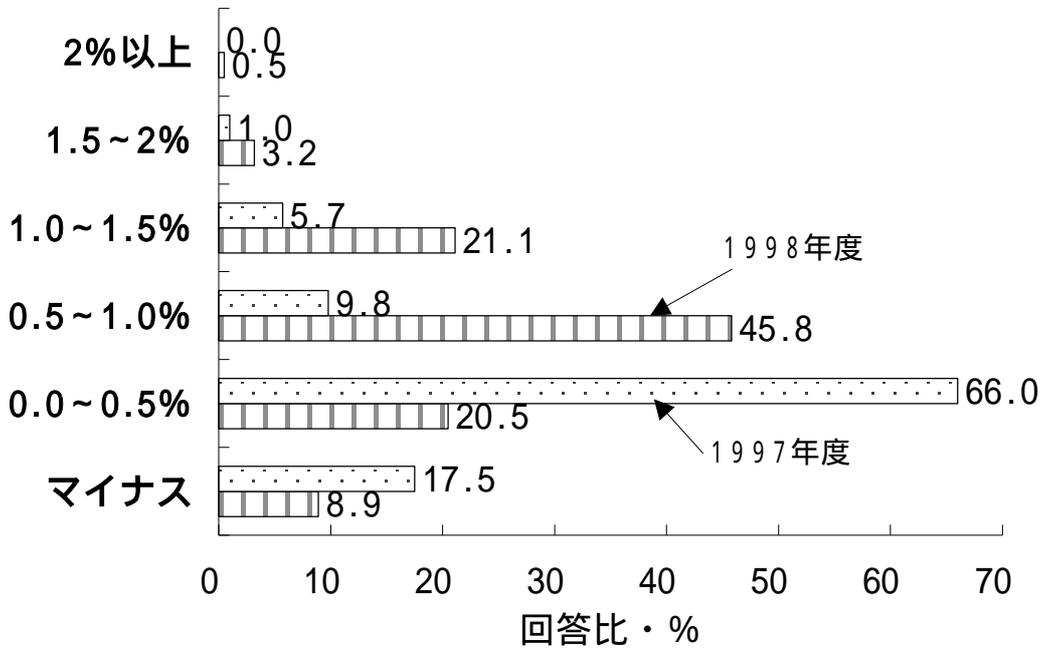


2. 経済対策の効果も踏まえ、98年度の景気をどのようにお考えですか。次のそれぞれの指標について、(ア)97年度、(イ)98年度、それぞれの予測をお答え下さい。

(1) 実質経済成長率

97、98年度ともにほぼゼロ成長見通し。98年度は1%弱へやや上昇。

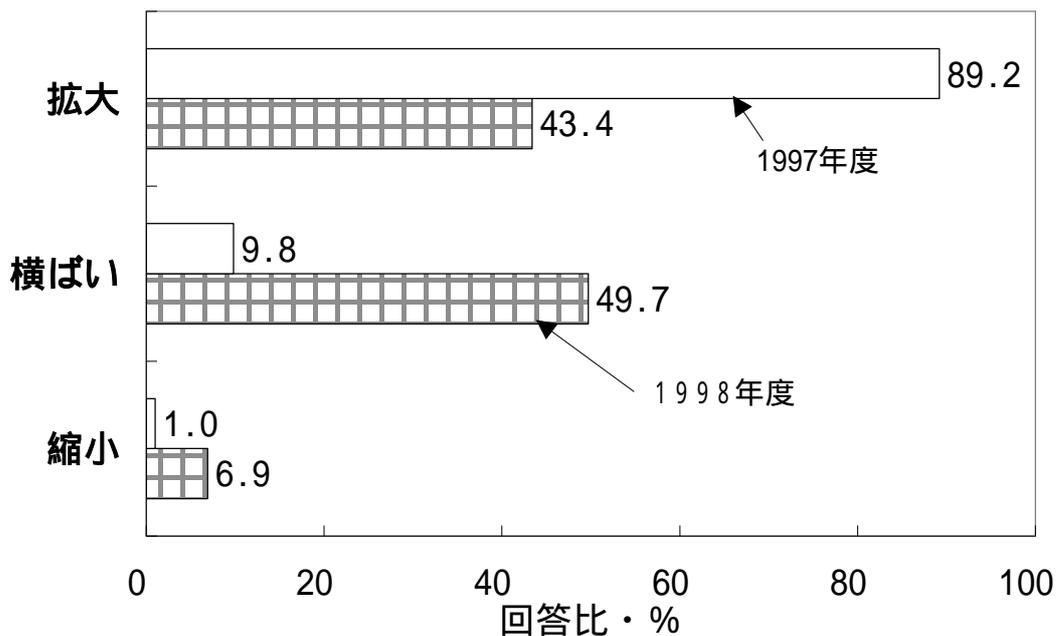
図表 14



(2) 経常収支黒字:前年度対比

97年度は経常黒字拡大、98年度はほぼ97年度並み

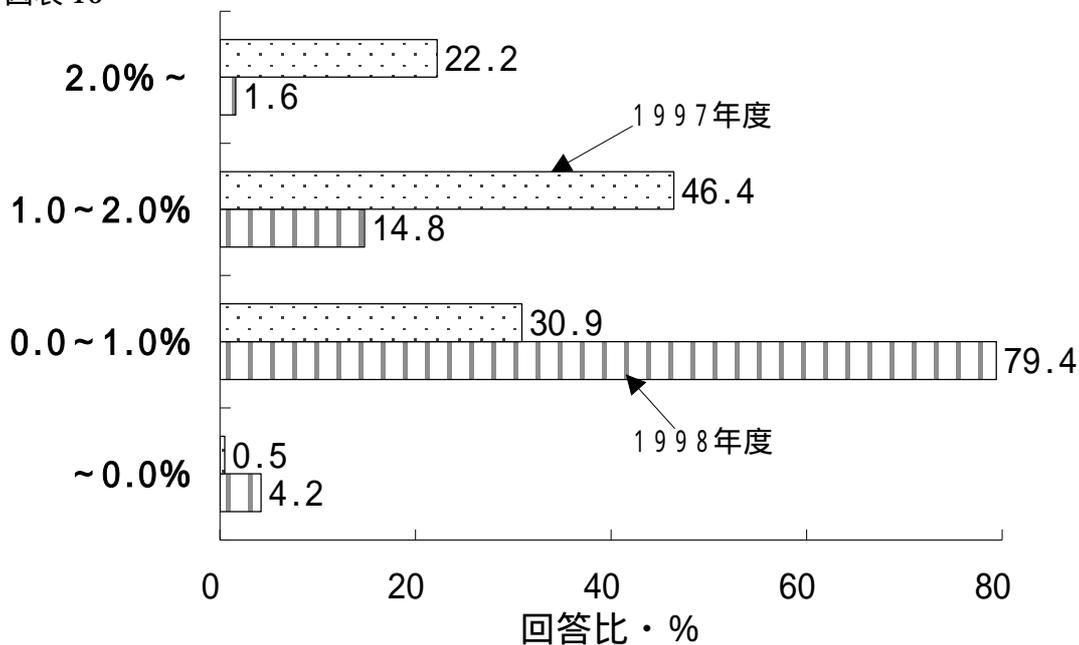
図表 15



(3) 消費者物価上昇率: 全国・総合

CPI 予測は 97 年度の 1% 台から 98 年度の 0% 台へ低下

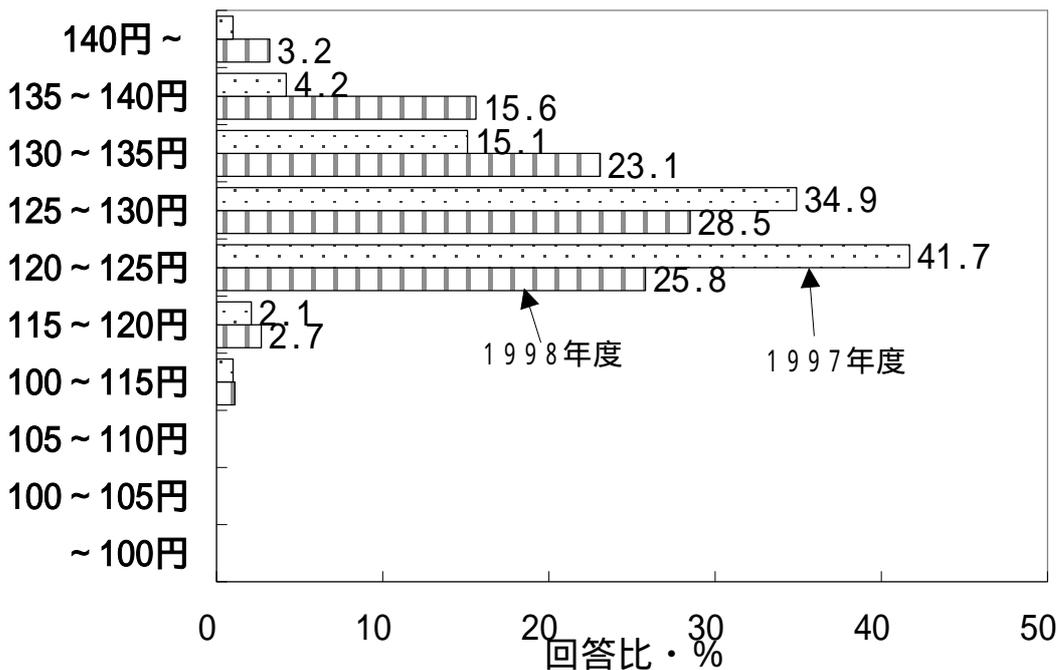
図表 16



(4) 円相場: 年度平均

98 年度の円相場は 120 円台 ~ 130 円台とやや円安へ

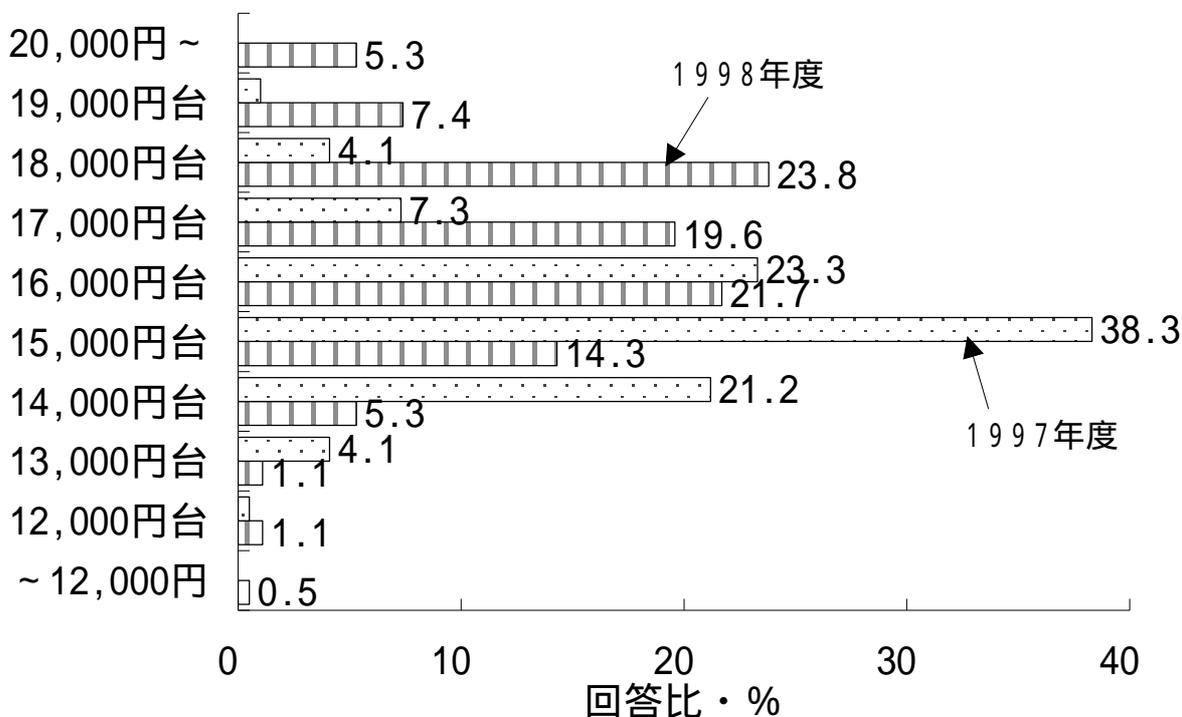
図表 17



(5) 日経平均株価:東証・225種、年度末値

98年3月末は15千円台が多数。99年3月末は16千~18千円台へ分かれる

図表 18



< 参考 > 回答者所属企業 / 業種内訳(人数)

製造業	70 人
加工組立	42
素材	28
非製造業	125 人
農・林・漁業	0
鉱業	2
建設	16
卸・小売	19
金融・保険・証券	32
不動産	5
運輸・通信・倉庫	10
電気・ガス・水道・熱供給	4
サービス	23
分類不能	14
回答者総数	195 人